



2027年3月6日(土)開催決定!

女+フェスティバル2027 時を超え海を越え、国際女性デーへ

30年ぶりに京都で「女のフェスティバル」を! と呼びかけた文章には、女たちの歩みを「バックラッシュの現実」として盛り込みました。当日、シンポジウムのゲストである斎藤真理子さんから、人々が厳しさのなか生き抜いてきた歩みを「良くなるものと悪くなるものがDNAの二重らせんのように1人1人を取り巻いている」という語りがありました。

ひとつの 이슈で集う集会でもない、専門家の集う学会でもない。日常を生き、その中でどうしようもない不安や怒り、孤立感、名付けようのない悩み、焦燥などを胸のうちに抱える人々が272名も集まり、ふさがってしまいそうな心が開いていくようなイベントとなりました。どこか自分に似ている誰かや、共通項を持つ誰かが同じ場所にいると気づくこと。決して、自分だけが特異なはみ出し者というわけではないと実感できる場所。そうした場所に身を置くことをどれほど人々が、女たちが望んでいるか、望んできたのか、それを確認できた「女+フェスティバル2026」でした。

これからも良い面を皆で作り上げ、喜び合い、仮にまた悪い反転がやってきても、さらなる反転を目論むために、「女+フェスティバル2027」に集まりましょう!

悪い面における最悪な事態である戦争に、体ごと危機感を受け止め動き出している女たちがいます。中でも軍用基地建設に抗い、その闘いを日常とする女たちの暮らし、海と国境を越えて生まれる女たちとの出会いが、メインシンポのテーマです。「女+(プラス)」に込められた複合的な差別や抑圧についても、継続して語り合います。ひとくりにされて見えなくされてきた差別に向き合い、それぞれの問いを開いて、今年もつながっていきましょう。

2026年秋 女+フェスティバル実行委員会



女+フェスティバル2026 報告

2026. 3.8 Sun.
9:10開場 / 9:30 - 16:30

参加費: 1000円
(自己申告割引あり)

京都市男女共同参画センター ウィングス京都

シンポジウム 「なぜ今『女のフェスティバル』なのか？」
9:30 - 12:00 2階・イベントホール
ゲスト: ウトロ農楽隊 斎藤真理子さん (韓国語翻訳家)

分科会① 部落フェミニズムから広がる地平

女+を生きにくくさせている日本社会の構造・規範をとらえ、これまでの闘いから学びたい。個々の経験をないがしろにせず、他者とつながる言葉を探し、自分が変わり社会を変えたい。部落女性たちが口火を切ります。みんなでしゃべってパワーアップ! /コーディネーター: アナーカ部落フェミニストの会

分科会② 個人的なことは政治的: みんなで話そう! 多文化共生

様々なルーツと文化的背景をもつ「女+」たちが自由に語り合う分科会です。各々の場所で日常的に直・間接的に経験されていることを、語り合える場にしましょう。商店街や団地など、生活の場や多様な学びの場を結ぶ京都の多文化共生の取り組み事例もご紹介します。 /コーディネーター: 姜喜代、姜ムニ

分科会③ 自分を大切に 自分を守るために 言いたいことを言う

「わたしの心や体はわたしのもの」というのはフェミニズムの大切なメッセージです。自分を大切にすることや、自分を守ること、自己主張について一緒に考えませんか? ヨガ体験タイム (講師: 吉野鞆) あり。

/コーディネーター: 周藤由美子 (ウィメンズカウンセリング京都)

分科会④ なめたらアカンで! 女の労働

～何が評価され、何が排除されるのか

不安定雇用と低賃金が当たり前となり、「自己責任論」がまかり通る中、性別や雇用形態による差別が広がっています。女たちの仕事を可視化して、尊厳ある働き方と同一価値労働同一賃金の実現への道筋を考えたいと思います。

/コーディネーター: 屋嘉比ふみ子 (パイ・エクイティ・コンサルティング・オフィス)

後援: 京都市
認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク (WAN) 基金助成

